

シンジェンタ、2006 年第 3 四半期業績
2006 年 10 月 20 日スイス、バーゼル発

< 英文リリース日本語訳 >

2006 年第 3 四半期の売上高は 14 億 1000 万ドルで、前年同期を 1% 上回りました (前年同期は 13 億 9000 万ドル)。恒常為替レート (CER) では前年同期比横ばいでした。2006 年 1 月 ~ 9 月の売上高は 66 億 1000 万ドルで、前年同期を 1% (CER) 下回りました。

農薬部門の売上高は 2% (CER) 増加しました。北半球のシーズンオフにおけるヨーロッパ、アフリカおよび中東地域の売上は、東欧での更なる成長により前年を上回りました。NAFTA 地域の売上は、米国における厳しい環境を反映し前年を下回りました。ラテンアメリカ地域の成長もブラジルにおける市場の悪化によりやや減速しました。アジア太平洋地域では、広域的な成長を達成することができました。

2006 年 1 月 ~ 9 月の新製品の売上は 20% 増加して、7 億 8400 万ドルでした。今期は、殺菌剤の売上が 2005 年の米国における在庫調整の結果、前年を上回りました。選択性除草剤の売上の減少は、昨年、第 3 四半期に計上された売上が第 2 四半期に前倒しとなっていることによります。殺虫剤の売上は、昨年の堅調な業績に比べて減少しました。プロフェッショナル・プロダクツにおいては、コンラッド・ファファード社が今期にシンジェンタに統合されました。

種子部門の売上は同 5% (CER) 減少しました。トウモロコシと大豆については、期末流通調整により大豆の売上が減少しましたが、米国におけるトウモロコシの売上増がこれを相殺して余りあるものでした。ラテンアメリカ地域の売上は、主としてブラジルでの減反により減少しました。各種畑作物用種子は、今期も堅調な売上の伸びを示し、これは特に東欧において顕著でした。野菜と花卉用種子も、特に NAFTA 地域での生鮮食品に対する需要の拡大とアジア太平洋地域の成長市場における 2 ケタの売上増により、好調な業績を達成しました。

2006 年を通して、シンジェンタは引き続き一株当たり利益について 2 ケタの成長を目標とします。

シンジェンタは、革新的な研究と技術とにより持続可能な農業を約束する、世界のアグリビジネスをリードする企業です。農薬の分野では世界第 2 位、高付加価値種子の分野では、世界第 3 位にランクされています。2005 年度の売上高は約 81 億ドル(約 8,971 億円)、世界 90 カ国以上で事業を展開し、約 19,000 人の従業員を擁しています。シンジェンタは、スイスおよびニューヨークの株式市場に上場しています。さらに詳しい情報は、インターネット www.syngenta.com (英語) または、www.syngenta.co.jp (日本語) でご覧ください。

この件に関するお問い合わせ先

シンジェンタ ジャパン株式会社

広報 大塚 真理子

電話:03-6221-1001

ファクシミリ:03-6221-1052

〒104-6021 東京都中央区晴海 1-8-10 オフィスタワーX 21 階